

# 令和5年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例



住所: 佐世保市山手町16番38号 児童数: 183名 学級数: 9学級 校長 丸上 貴司

## 1 テーマ

自分のよさや可能性を認識し、豊かな人生を切り拓く児童の育成

## 2 実践内容

### ① 生活・学習規律の徹底

#### ・「はきものそろえ」の徹底



最初の一歩として全校で「はきものそろえ」に取り組みました。一学期中にきれいにならぶようになりました。

#### ・「あいさつ」ののぼり旗



児童会を中心に「あいさつで笑顔ひろがる山手小」というキーワードを作りました。

#### ・縦割り掃除



1年生から6年生までのグループで掃除をします。高学年が下級生に掃除の仕方を教えながら、静かに掃除をしています。

#### ・「黙想」の実施



落ち着いて授業に入ることができるよう、授業の前に黙想をしています。黙想を行うと、私語や手遊びなくスムーズに学習に入ることができます。

## ② 地域を生かした学習の充実

### ・交通安全教室



佐世保警察署の方をお招きして交通安全の学習をしました。

### ・図書ボランティアによる読み語り



図書ボランティアの方々には図書室の整備や読み語り、放課後子ども教室での体験教室実施など大変お世話になっています。

### ・近隣の保育園や幼稚園との交流



近隣の幼稚園、保育園と1年生との交流を年間3回行いました。

### ・平和学習



佐世保空襲や長崎原爆の学習と発表を4年生が行いました。

### ・3年社会科見学



鮮鼓堂への見学を3年生が行いました。

### ・中学生の職場体験学習



職場体験にきた祇園中学校の生徒との交流を行いました。

### ・感謝を伝えよう集会



6年生が中心となり、ボランティアの方々へ感謝を伝える集会を開きました。

### ・ふるさと環境学習



4年生がパールシーリゾートに行き、九十九島の動植物について学びました。

・5年生社会科見学



5年生が九州テンヤ水産センターへ見学に出かけました。

・居住地校交流



校区に住む支援学校の児童との交流を4つの学年で行いました。

③ 外部講師の積極的な活用

・長崎歴史文化博物館の移動博物館



全学年対象の移動博物館を体育館で行いました。

・長崎歴史文化博物館の出張授業(4年)



「長崎の歴史・文化」について4年生が学びました。

・ながさき平和歴史ガイドの活用(4年)



4年生の長崎見学旅行では、平和歴史ガイドの方の説明を聞きました。

・「睡眠」に関する学習(3・4年)



睡眠健康指導士の前田さんをお招きして、正しい睡眠について学習をしました。

・Fan English Camp(4年)



ALTの先生方との外国語活動を行いました。

・薬物乱用防止教室(6年)



学校薬剤師さんによる講演を行いました。

#### ④ 学力テストをふまえた授業改善や学力の向上

##### ・市県全国学力調査



学力調査の結果、どの学年も基礎的な計算や漢字を書くこと、物語の読み取りに苦手があることが分かったので、そこを中心に取組を行いました。

##### ・チャレンジタイム算数



チャレンジタイム算数は基本的な計算練習に取り組みました。一年生もがんばって小問の計算やマス計算に取り組んでいます。

##### ・チャレンジタイム国語



どの学年も漢字を苦手としていましたので、ドリルやプリントで練習を進めたあと、「山手小漢字検定」を行いました。

##### ・国語の研究授業



物語の読み取りを中心とした研究授業を全ての学級で実施しました。

##### ・標準学力テストの実施(全学年)



12月に全学年標準学力テストを実施しました。その結果を受けて、さらなる学力向上を目指します。

##### ・読解力の向上に向けて



標準学力テストの結果から、引き続き文章読解の練習を行っています。

#### ⑤ 情操教育としての栽培活動

##### ・3年生 人権の花栽培活動



3年生がひまわりの栽培に挑戦しました。大きなひまわりがたくさん咲きました。

##### ・花いっぱい運動



花作りが得意な管理員さんと、委員会活動の見事なコラボレーションです。

・2年生 野菜栽培



大きなお芋がたくさんとれました。管理員さんといっしょに一生懸命お世話をしました。

・1年生 春の花栽培



管理員さんと一緒に、卒業式や入学式を花いっぱいにしてとくさんのお花を育てています。

### 3 おわりに

「令和の日本型の教育」。この教育を一言で表すと「自分らしく、夢の実現のために生き抜くことができる人を育てる教育」ととらえています。自分らしく生きるためには、自分でできることを増やしていくことが大事です。また、自分らしくとは決してわがままであってはならず、周りの人の協力、協働、思いやりの心が大事だと思っています。

このことを念頭に置き、今年度本校では学校教育目標の具現化のために「本物の笑顔を輝かせる」ことをキャッチフレーズに教育実践を重ねてきました。

笑顔を輝かせるために大切にすることは以下の3つです。

- ① 自分のことは自分でできる力
- ② 友達と協力できる力、
- ③ 周りの人のために貢献できる力

この笑顔を輝かせる3つの力を育むために、「特色ある学校づくり」においても、教育実践を積み重ねました。

具体的には、実践事例に掲載していますように、校内では、生活基盤や学習規律を整えることに取り組みました。その中で、自分たちの学校は、自分たちの手で良くしたいという、子ども達の願いが詰まったのぼり旗も完成しました。そこには、「あいさつで笑顔ひろがる山手小」のことが描かれており、あいさつというコミュニケーションを大事にしながら笑顔を輝かせていくという子ども達の思いが表れていました。校庭に立つのぼり旗は、子ども達の笑顔を毎日見守ってくれています。

また、地域の方や学校ボランティアの皆さん、関係機関の力を借りながら、本物の笑顔を輝かせるための実践も行うことができました。今年度はコロナ感染も一応のおさまりを見せ、学校に多くの方をお招きしたり、或いは学校の外に出かけて交流したりすることができました。多くの人との関わる事ができたことは、子ども達の笑顔を輝かせるために大きな役割を果たしてくれたと考えています。交流して下さった皆様には大変感謝しております。

1つ1つの教育実践は、小さな実践です。しかしながら、小さな実践の積み重ねこそが、令和5年度の山手小の子ども達の笑顔を輝かせ、そして、笑顔を本物に近づけることができたと考えています。

令和の時代を生きる子ども達。「自分らしさ」と「夢の実現」のために、今年度の教育実践へのご理解、ご協力に感謝するとともに、今後も本校の特色を生かしながら、教育実践を重ねていきたいと思ひます。